

富山のデザイン情報誌

offer

toyamadesign.jp

vol. 52

03 特集
富山のデザインに関するトピックス70

14 富山県商品開発研究会
ミラノサローネ2024 デザイントレンド報告

15 とやまのお土産ブランド
美のこわけ

16 デザイン講習会
能登の未来を築く ―みんなで考える復興
講師：鈴木 啓太 ディスカッション：河崎 圭吾、岡 雄一郎

18 視察見学会
デザイン、工芸、アートを融合
新しいものづくりに挑むアルチザン集団
講師：上町 達也、石川 勤

20 ものづくり産業サーキュラーエコノミー推進事業
ばっかいんぐ ものづくりにクリエイティブな始末を

21 とやまのサ活 ―みんなで育てる富山のサウナ文化― 関連イベント
とやまのサウナの魅力をみんなで考える

22 富山プロダクツ選定事業
優れた富山プロダクツとして今年度18点を選定

24 ナイトフォーラム
創造的な産地をつくる ―支える・作る・売る・醸す
講師：新山 直広

26 2024(令和6)年度 事業報告

※敬称略

COVER

グラフィックデザイナー
二上 晴君 Futagami Harukimi

2001年富山県生まれ。
2024年3月に富山大学芸術文化学部を卒業し、
同年4月から高岡市にある「geibungallery」の店長を務める。



表紙コンセプト／富山の海が好きです。南の島々には碧く透き通った海があるといいます。富山の海は鈍い灰色で、重く、底が見えないほどのエネルギーを持っています。私はそれに畏れを感じます。時折、光を受けて、波の稜線が輝きます。その瞬きは星空のようにも見えます。私はそれに愛を感じます。富山に生まれ、富山で生きてきました。富山の海が好きです。



01

- 1 トウキ葉 美容オイル(クロモジの香り)
- 2 アロマスプレー 富山の森の香り(クロモジブレンド/タテヤマシギブレンド)
- 3 へちま水石けん
- 4 アクアナチュラルタブレット
- 5 ハーブティー(ぐつすりブレンド/やわやわブレンド)
- 6 枕カバー ハトムギぬめが練込和紙、はとむぎぬめが混紡綿 使用(ライトグレー/ネイビー)

TOYAMA DESIGN TOPICS

富山のデザインに関するトピックス

70

商品やサービスの魅力づくりのために〈デザイン〉は重要な役割を果たしています。
富山県では企業だけでなく公共団体や教育機関などで〈デザイン〉を活用した
様々な取り組みが行われています。
2024年、〈デザイン〉によってその魅力度をアップさせ話題となった
富山県の「モノ／コト／取り組み」。
その中から70のプロジェクトをチョイスしてご紹介します。



3年目を迎えた「美のこわけ」
今回は「睡眠」をテーマに新商品をローンチ

睡眠の専門家が監修
美と癒しのための商品群

富山県総合デザインセンター
2024.11 LAUNCH

販売開始から3年目を迎えた「美のこわけ」。今回は美と健康の観点から「睡眠」に着目。睡眠の専門家である神川康子氏(睡眠・生活研究所 所長／富山大学 名誉教授 博士)監修のもと、質のよい睡眠につながる新商品をラインナップ、パッケージも一新しました。



エッセンシャルオイルの直営店

上市町にオープン

プロジェクトデザイン

2024.03 **LAUNCH**

県産樹木を使ったエッセンシャルオイル(精油)を生産するプロジェクトデザイン(滑川市)のアロマセレクト事業部が、上市町に初の直営店をオープンしました。生産・販売拠点としてだけでなく、ワークショップも開催し「森の魅力」を発信していく考え。同社は10年前から県産材の間伐材や未利用材を使ったアロマ生産に取り組んでおり、天然成分100%の香りが人気を集めています。

02

和服縫製会社の

ファクトリーブランドだからできる

高品質で手頃な価格の商品を開発

ラボージェ・したてやさん

2024.03 **PRODUCT**

呉服縫製を行なっているラボージェ(氷見市)は、ファクトリーブランド「したてやさん」で、着物を仕立てる技術を活かした現代のファッションに溶け込む商品開発を行なっています。3ステップで着脱簡単な「denimアウターきもの」は、コートのような羽織りとしても楽しめる着物。チョコレートのようなフェイクレザーとデニムをパッチワークした「チョコっと帯【半巾帯】」は、カジュアルな木綿着物にも合い注目を集めています。

03

カイニョ(屋敷林)から作った

アロマミスト

富山県西部観光社「水と匠」

2024.04 **PRODUCT**

地域振興に取り組む富山県西部観光社「水と匠」(高岡市)は、砺波市内の屋敷林(カイニョ)を剪定した枝から抽出した精油を用いたアロマミストを商品化し、販売を始めました。マツやスギ、ヒノキ、イチイなどの枝葉を細かく粉碎し、水蒸気で蒸して精油を抽出。季節や地域、屋敷によって異なる香りが楽しめます。製造はアロマ事業を担うアロマセレクト(上市町)。商品は「カイニョミックスアロマミスト」。45ml/1,320円(税込)。

04



05

「富山ますずし学校」が

TOYAMA ADC 2024 グランプリ受賞

TOYAMA ADC

2024.04 **AWARD**

グランプリに選ばれたのは、高森崇史(T&K)さんの「富山ますずし学校」。小学生たちが富山の海や川、サクラマスについて学ぶワークショップの中で生まれた素材をもとに、ますずしのオリジナルパッケージと同封するリーフレットのデザインを制作。富山のますずし販売店7店、日本財団、とやまミライラボなどとのコラボ企画で展開。TOYAMA ADC 2024の入賞/入選作品は10月に開催された富山デザインフェア内「TOYAMA ADC展」で展示されました。



07

「富山湾海洋深層水」を

テーマにイベント開催

トトン

2024.04 **EVENT**

富山のお土産プロジェクト第3弾となる美と癒しの新ブランド「美のこわけ」が、家具の循環(回収・再生・販売)に取り組む複合施設「トトン」が開催するイベント「ナイトトトン」でコラボしました。イベントのテーマは「富山湾海洋深層水」。海洋深層水から取り出したミネラルなどを配合した美のこわけのスキンケア商品のほか、深層水塩を使った富山米「富富富」のおむすびなどの展示販売が行われました。

富山情報ビジネス専門学校

2024.04 **EVENT**

富山情報ビジネス専門学校のWebクリエイター学科2年生15人が、県総合デザインセンターの「とやまデザイン・トライアル」事業の一環として、県内のものづくり企業4社の魅力発信のための動画制作に取り組みました。対象となったのは、ウェルビー、助野、能作(ともに高岡市)、光岡自動車(富山市)。学生は企業ごとに4グループに分かれ、11月の完成を目指し企画立案から撮影、編集までを行いました。完成した動画はYouTubeで公開されました。

県内企業4社のP R動画
専門学校生が制作

08



09

北日本新聞創刊140周年記念

「エッシャー 不思議のヒミツ」

富山県美術館

2024.04 **EVENT**

世界的に人気の高い版画家エッシャーの展覧会が、北日本新聞創刊140周年記念事業の一環として、富山県美術館で開催されました。本展は、オランダのエッシャー財団の全面的協力のもと、初期の作品から「だまし絵」的な代表作まで、約160点を一堂に展示。作品をイメージさせるセットなどを使って、エッシャーの作品を体感する場も設けられました。

富山伝統工芸「おりん」「しけ絹」「菅笠」が

ミラノデザインウィーク2024に出展

トヨタ紡織

2024.04 **EVENT**

ミラノ市にデザインスタジオを設置し、ミラノデザインウィークに継続出展しているトヨタ紡織(愛知県)。2024年はクリエイティブディレクターにデザインユニットの今人~imajin~を迎え、富山の伝統工芸、伝統産業とのコラボで出展。展示では、おりん職人・島谷好徳氏、絹織物作家・松井紀子氏、菅笠職人・中山煌雲氏らが継承してきた「音」「佇まい」「触感」の技を組み合わせ、「心地良さ」を演出しました。



11



13

「組子」の魅力を伝える施設を整備

隈研吾氏が監修

河島建具

2024.05 **LAUNCH**

日本伝統の木工技術である「組子」。その魅力を伝える施設を整備しました。木製建具製造の河島建具(砺波市)が、本社敷地内にある木造の作業所をリノベーションしています。木を用いた建築を数多く手がけている隈研吾建築都市設計事務所(東京)が監修に携わりました。製品展示に加え組子体験ができるスペースも設置。職人の技術による新たなアイデアやコラボレーションを生み出す場所を目指します。

※完成イメージ

鉄加工の技術を活かし

ピエール・ジャンヌレ作品をオマージュ

三秀工業

2024.05 **LAUNCH**

三秀工業(高岡市)は「鉄の更なる可能性を追求する」ことをビジョンにブランド「3E WORKS(スリーイー・ワークス)」を始動。電機や機械産業のサプライヤーとして磨き続けてきた鉄加工の技術を活かすべく、クラウドファンディングでプロジェクトを開始しました。その第一弾は、建築家ピエール・ジャンヌレの代表的な椅子とサイドテーブルをステンレススチールで再現したもの。製造は全て自社内で完結、職人ならではの手仕事で仕上げています。



14

販促・ノベルティグッズに
オリジナル手袋を提案

10

勝星産業 GUNTE Lab.

2024.04 **GRAPHIC**

作業手袋メーカーの勝星産業(南砺市)は、「すべり止め軍手」を日本で最初に作ったメーカー。これまでの作業用手袋に加え、ノベルティーや販促グッズとしてオリジナル手袋作成を行うサービス「GUNTE Lab.」をスタート。最新の編み機による一貫体制と、プリント加工機などを自社開発することで、ぶつくりとした立体的なプリントから、グラデーションプリント、香り付きプリントまで幅広いデザインによる新しい手袋の活用方法を提案しています。

ガラス細工のホタルイカ

SNSで人気爆発

富山ガラス工房

2024.04 **PRODUCT**

富山市在住のガラス作家・勝木竜二氏が制作した、ホタルイカのオブジェが人気を集めています。富山ガラス工房(富山市)が販売を始めると「かわいい」「おいしそう」とSNSでたちまち話題に。勝木氏は滋賀県出身。石川県七尾市の能登島ガラス工房を経て、富山ガラス工房のある富山に移住。2021年からホタルイカを作り始めました。1個2,420円(税込)。スーパーアオンラインショップなどで購入可(不定期)。



12

「くすりの富山」資料館
アップサイクルを
テーマに改装

広貫堂

2024.05 **SUSTAINABLE**

医薬品メーカーの広貫堂(富山市)は、2022年閉館した本社敷地内の「広貫堂資料館」を、社員が飲食やデスクワークに使えるスペースに改装しました。同資料館では、映像とジオラマで「くすりの富山」の歴史を紹介するほか、昔の薬のパッケージなどを展示していました。施工は、家具販売の米三が運営する「トトン」。資料館の壁材を活用したり、食堂で使っていた机や椅子、アップサイクルしたソファなどを設置し、環境に配慮したデザインとしました。

15





しけ絹布ナプキンと絹用洗剤をセット

母の日ギフトでコラボ

松井機業×くまの洗濯堂

2024.05 **PRODUCT**

絹織物の松井機業（南砺市）とクリーニングのくまの洗濯堂（砺波市）がコラボし、母の日に向けてギフトを企画・製品化、販売を開始しました。商品は、独特な風合いを持つ「しけ絹」で織り上げた布ナプキンやストールと、絹も洗える洗濯用洗剤をセットにしたもので、4種類をラインナップ。松井機業のオンラインストア「JOHANAS」および両社の店頭で販売。4,400円～27,500円（税込）。

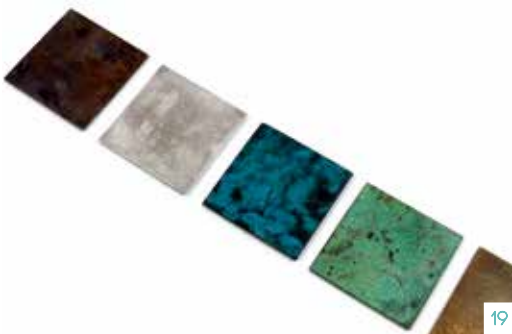
テキスタイルデザイナー鈴木マサル氏

被災地復興の想いをデザインに

富山もようプロジェクト

2024.06 **GRAPHIC**

「富山もよう」を通じて富山を見つめてきた鈴木マサル氏が、能登半島地震復興への思いを込め、「北陸応援もようHAREYAMA」を制作。デザインのモチーフとなったのは、夕映えの立山と白山の美しく力強い姿。10周年を迎えた富山もようプロジェクトとサクラボックス（富山市）が、ファブリックボード（大／小）と防災ボックスとして製品化しました。

学生18名が
新たな手袋の開発に挑む

富山大学芸術文化学部×勝星産業

2024.06 **EVENT**

「とやまデザイン・トライアル」は、県総合デザインセンターで実施しているクリエイティブ人材マッチング・育成事業。学生に富山のものづくりに興味を持ってもらい、将来を担うクリエイティブ人材の確保と育成を目指す事業。今年度は、富山大学芸術文化学部の学生が、勝星産業（南砺市）と連携し、新たな手袋の開発に取り組みました。

「三次元曲面曲げ」技術を用いたガラス製品

法政大学デザイン工学部システムデザイン学科と共同開発

新光硝子工業

2024.06 **PRODUCT**

新幹線のフロントガラスなど「三次元曲面曲げ」技術を用いた製品づくりで定評のある新光硝子工業（砺波市）が、法政大学デザイン工学部システムデザイン学科との共同で開発したガラス製品ブランド「shinG（シング）」。「KANOHARI」「VETROPIEGATA」に次ぐ3つ目のシリーズ「lampieni」が誕生、インテリアライフスタイル2024に出展しました。「小さな池」を意味する製品は高度な曲面加工技術を小さな器に応用したもの。花器や小物入れとしての用途を見越しています。



リサイクル材100%の

アップサイクルコースター

HARITA×モメンタムファクトリー・Orii

2024.06 **SUSTAINABLE**

使用済み家電製品のリサイクルフローから回収した銅合金スクラップを原料とした、100%リサイクル材のアップサイクルコースターが誕生しました。手がけたのは、HARITAとモメンタムファクトリー・Orii（ともに高岡市）。HARITAの高いリサイクル技術と、モメンタムファクトリー・Oriiの伝統工芸に基づいたクリエイティブなデザインが融合することで生まれた革新的な製品です。

「のぼせシラス」を商品化
サウナハット

今井機業場

2024.06 **PRODUCT**

老舗生地メーカー・今井機業場（南砺市）が、高機能サウナハット「のぼせシラス」を商品化。クラウドファンディングで取り扱いを始めました。通気性や吸放湿性に優れた特殊なニット生地を使い、のぼせることなく「ととのう」ことができるのが特長。デザインは産学官連携事業で当時、富山大学の学生二上晴君さんからの提案。暑い季節でも快適に着用できるマスク「ムレシラス」に続く第2弾として、同じ高機能素材を使って企画されました。



民藝 MINGEI – 美は暮らしのなかにある

富山県美術館

2024.07 **EVENT**

日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる—いま改めて注目を集める柳宗悦が説いた「民藝」。本展では、「衣・食・住」をテーマに民藝の品々を展示するほか、産地とそこで働く作り手、受け継がれる手仕事も紹介。また現在の民藝ブームに大きな役割を果たしてきたテリー・エリス／北村恵子氏（MOGIFolk Art デイレクター）によるインスタレーション展示も行われました。



22

あられの素焼きが原料

「アラレホワイトエール」

日の出屋製菓×NAT.BREW

2024.07 **PRODUCT**

米菓製造メーカー・日の出屋製菓産業（南砺市）が創業100周年を記念して、同じく南砺市でクラフトビールを製造・販売しているNAT.BREW（ナットブリュー）とコラボして、ビール「アラレホワイトエール」を共同開発しました。原料は日の出屋製菓のロングセラー商品「かおり千枚」の素焼きと、ビール醸造、そして米菓づくりにともに欠かせない南砺の水。薄焼きあられ特有のお米の香ばしい風味が楽しめる飲み口のいいホワイトエールに仕上げました。※数量限定品につき販売は終了しました。



23



24

北陸三県の情報発信拠点

大阪にオープン

HOKURIKU+（ホクリクプラス）

2024.07 **LAUNCH**

富山県・石川県・福井県は、JR大阪駅西口改札直結の「KITTE大阪」2階に、北陸三県の魅力を体感できるアンテナショップ「HOKURIKU+」をオープンしました。店内には三県の伝統工芸品など特色ある商品を取り揃え販売するほか、北陸の地酒などを楽しめるスタンディングバーを設置。店内装飾には、高岡銅器、石川県の能登杉、福井県の笏谷石（しゃくだにいし）を使用。各県の特色を感じられる空間を演出しました。

伝統工芸品産業振興プロジェクトチーム発足

産地支援員を配置

富山県伝統産業支援課

2024.07 **LAUNCH**

富山県の伝統的工芸品産地には、国指定として高岡銅器、井波彫刻、高岡漆器、庄川挽物木地、越中和紙、越中福岡の菅笠、県指定では越中瀬戸焼、高岡鉄器、高岡仏壇、とやま土人形、富山木象嵌があります。これら産地を訪問・調査し課題を集約、専門家などとのマッチングで課題解決を図る産地支援員を県西部にある県総合デザインセンターに配置。きめ細かな支援で産地の活性化を図っていきます。3月上旬にはとやま土人形工房に訪問し、普段のお仕事について理解を深め、課題共有をしました。



26

ナガエ

2024.08 **LAUNCH**

ナガエ（高岡市）は、LIFE STYLE SHOP「a.278 for SLOW LIVING（エーニイナナハチ フォー スロー リビング）」の実店舗を高岡市内島にオープンしました。2019年よりECで運営してきた同ショップの初となる実店舗。スローライフをテーマに、アップサイクル、サステナビリティなどをポリシーにセレクト。お香やアロマなどの香りのアイテムからテーブルウェア、インテリアアイテムを提案しています。

サステナブルでアプリにも連動「しけ絹手帖」新発売

松井機業 with コクヨ

2024.08 **PRODUCT**

しけ絹とは2頭の蚕が作り出した繭玉からできる糸を織り上げたもので、独特の美しい模様が特徴。絹織物の松井機業（南砺市）は、小傷などで使用できず長年保管されていたしけ絹を表紙に用いた手帳を、富山県にルーツを持つコクヨ（大阪府）と共同開発。サステナブルな「しけ絹手帖」として製品化しました。カレンダー出力アプリでスマホやPCと連動できるなど、古今の機能を併せ持つのが特徴。A5変形／192ページ／2,200円（税込）。



28



“もったいない”をデザインの力で

解決するワークショップ開催

富山県総合デザインセンター

2024.07 **EVENT**

ものづくりの工程で生まれる「切れはし」。大きさや形が様々なこれら「端材」をデザインの力で「捨てずに使う」、その考え方を学ぶワークショップが県総合デザインセンターで行われ、参加者は印刷用紙などの切れ端を使った小物づくりに挑みました。富山県では、青少年や県民が科学技術に対する関心や理解を深める機会として「とやま科学技術週間」（夏休み子ども科学研究室）を開催しており、その一環として開かれました。

LIFE STYLE SHOP

「a.278 for SLOW LIVING」の実店舗がオープン



27

富山県産の芳香蒸留水を配合した

Taroma® スキンハーバルウォーター誕生

MAE

2024.08 **PRODUCT**

MAE (旧前田薬品工業) (富山市) が製造販売を手がけるアロマブランド「Taroma® (タロマ)」に、富山県産の芳香蒸留水を配合した化粧水が新登場。富山県産の植物を立山連峰の湧水を使い水蒸気蒸留法でていねいに抽出し化粧水にしたもので、肌にすっとなじみ、しっとりとした潤いを保ちます。ラベンダー、ゆず、ヒノキの3種類を展開。200ml/3,300円(税込)。



29



カフェくらうん

2024.08 **PRODUCT**

1958年創業の「カフェくらうん」(高岡市)。店主で焙煎士の小島治さんが新しいコーヒーの淹れ方として「ティップ式コーヒーバッグ」を考案。紅茶と同じティーバッグ原理で、苦みが出にくく、浸す時間を調整することで自分好みの濃さにできる。米国にスーパーマーケットを展開する企業などと連携し、米国で開催される「能登半島地震復興フェア」に出品。メイドイン高岡のコーヒーを海外にも発信します。



30

本格的な
コーヒーを
紅茶と同じ
ティーバッグ
原理で楽し
める

築130年以上の

歴史ある「旧土肥邸」を

古民家宿にリノベーション

土肥邸母屋

2024.10 **SUSTAINABLE**

かつては公民館のように地域の方々が集まり、交流の拠点となっていた立山町の名家「旧土肥邸」。そんな古民家を人々が集い新たな文化や地域の発信拠点としてリノベーションし、「交流と新たな文化が生まれる古民家」として再生しました。最大12名が宿泊できる一棟貸し切り型宿のほか、食事処「土肥邸母屋台所」も併設。シェアキッチン的一般レンタルも可能なので、各種イベントなどで利用することもできます。



36

廃棄物100%ゼロ

環境負荷を最大限に

抑えるレトロ倉庫



38

荒木商会

2024.10 **SUSTAINABLE**

「ゴミのない社会の実現」を目指し、リサイクル事業を展開している荒木商会(高岡市)。近年では家屋等の片付け事業に注力し、発生する不要品を洗浄・清掃しリユースする新会社「ROKA STYLE」を立ち上げ、リユース品を展示販売するレトロ倉庫を開設しました。今後は、BtoB強化を図り、レンタルや卸販売などを通じてさらなるリユース品活用を進めます。



40

ライフサイクルコスト重視の

カーポート型太陽光パネル架台

三協立山 三協アルミ社

2024.10 **AWARD** GOOD DESIGN AWARD 2024

三協立山 三協アルミ社(高岡市)は、これまで主流であったスチール製架台に代わるアルミ構造のカーポート型太陽光パネル架台を製品化、グッドデザイン賞を受賞しました。耐食性やリサイクル性に優れたアルミは、ライフサイクルコスト重視の風潮の中で注目を集めています。両面発電太陽電池を屋根材として組み込んだスリムな一体型構造のデザイン、強度・排水性などの機能性、施工性が評価されました。

「OKANE QUEST」が

第44回新聞広告賞を受賞

北日本新聞社

2024.09 **AWARD**

日本新聞協会開催の第44回新聞広告賞で、北日本新聞社の「OKANE QUEST (オカネ クエスト)」が新聞社企画・マーケティング部門で同賞を受賞。紙面をロールプレイングゲームのようにデザイン、読者が主人公と一緒に金融知識を深めるという内容。金融教育という難しいテーマを親しみやすく伝えたことが評価されました。同社の受賞は2015年の「富山もようプロジェクト」以来、9年ぶり3回目。



31

GO FOR KOGEI 2024

2024.09 **EVENT**

北陸から新たな工芸の発信をテーマとするイベント「GO FOR KOGEI」。2020年から始まり、のべ14万人以上の来訪者を記録している同イベントが、富山市の岩瀬エリア、金沢市の東山エリアのギャラリーや飲食店などを会場に開催されました。今回のテーマは「くらしと工芸、アートにおける哲学的なもの」。総勢15名+4組のアーティストが今日の多様な工芸とアート作品を提示しました。



34

「美のこわけ」フェア

日本橋とやま館で開催

富山県総合デザインセンター

2024.09 **EVENT**

「越中富山お土産プロジェクト」の第3弾として開発された「美のこわけ」。「くすりの富山」で培われた製菓技術をいかし、美と健康をコンセプトとしたスキンケア商品など美容アイテムのセットや県内メーカーの関連商品を紹介するフェアが、東京の富山県アンテナショップ「日本橋とやま館」で開催。会期中は、ここからたを癒す「フレグランス」や「バスソルト」「ハーブティー」づくりなどのワークショップが行われました。

富山市・金沢市で開催
北陸発の工芸発信イベント



32

サウナがテーマの展覧会

富山県総合デザインセンター

2024.09 **EVENT**

サウナを特集した展覧会「とやまのサ活～みんなで育てる富山のサウナ文化」が、富山市の県民会館内のカフェで行われました。主催は富山県産業高度化センター、県総合デザインセンター、D&DEPARTMENT TOYAMAなど。県内企業が開発したサウナマットやミストといったサウナグッズなど約20点を展示。シラカバの葉で体をたたく道具「ヴィヒタ」を県産のクロモジやカツラで作った試作品などユニークな製品が来場者の目を引いていました。



33

館鼻則孝《ディセンティングペインティング「雲龍図」》2024

「源氏香の図」をモチーフにした

鑄造香炉を製作

中村製作所

2024.09 **PRODUCT**

プロダクトデザイナー・阿部憲嗣氏が、創業約300年の老舗・松栄堂(京都府)とのコラボレーションで企画した「鑄造香炉 香図」。日本の香道で用いられる「源氏香の図」をモチーフにした複雑な形状の香炉で、その製造を鋳物メーカー・中村製作所(高岡市)が担当しました。五角形を組み合わせた立体的な形状は、同社のロストワックス精密鑄造のすかし技法を用いて一体成形されたもの。素材にはブロンズが使用されています。



35

学生シェアハウスを核とした

まちなか再編事業

富山市民プラザ filプロジェクト

2024.10 **AWARD**

GOOD DESIGN AWARD 2024

富山市などが出資する富山市民プラザが、空きビルを活用した街づくりプロジェクトでグッドデザイン賞を受賞しました。空きビルをリノベーションし、学生シェアハウスllを核に、地域に開かれた食堂、ランドリー、庭などを整備。「まちなかの活動への参加」を入居条件に意欲的な学生を集めるなど、学生のチャレンジを街の活性化に繋げた企画が評価されました。



41

雑誌ソノコト2024 2月号より

ガラス製バルコニー手すり
「エルビュート ハンドレール」

YKK AP

2024.10 **AWARD** GOOD DESIGN AWARD 2024

近年、住宅のバルコニーは、物干し空間としての存在価値が薄れ、2階にリビングを設置する間取りの増加で住空間の延長としてのニーズが高まるなど、そのデザインや機能は変化しています。こうした変化をとらえてデザインされた「エルビュート ハンドレール」は、住宅のシンプルなファサードと調和するスリムでノイズを抑えたフレームが特徴のペランダ手すりです。



42

経年変化を楽しむキーホルダー

「Keypot(キーポット)」

ハシモト清

2024.10 **AWARD**

GOOD DESIGN AWARD 2024

高岡伝産デザインマッチング(コンペ)で出会ったデザイナー・石井宏和氏(10S TOKYO)とともに製品開発をスタート。台座付きとすることで鍵の所在忘れを防止。基材の真ちゅうには、仏像や仏具などを着色する伝統的な着色技法を採用、経年変化によって色が変わっていくことを楽しめるデザインとしました。



43

窓に遊び心を

プリント網戸「デコアーミ」

西川産業

2024.10 **AWARD** GOOD DESIGN AWARD 2024

外から屋内を見えなくする目隠し効果と、UVインクによるプリントという遊び心を網戸に付加。グラフィックや写真などのデザインの再現性、耐候性を3年にわたる実証実験で検証し製品化されました。今後は建物の個性ある外観づくりや広告などへの利用拡大も期待されます。



44

隣接する公園、

立山の眺望と調和する新社屋

十全化学

2024.10 **AWARD**

GOOD DESIGN AWARD 2024

十全化学(富山市)は1950年創業の医薬原薬製造企業。これまで分散していた事務機能の集約と社内コミュニケーション充実を目的に本社社屋を建築しました。クラックした敷地形状を活かし、隣接する住宅地や環水公園という環境に配慮するとともに、立山連峰へ開ける眺望を確保。洪水対策としてつくられたピロティは隣接する公園と連続し、従業員だけでなく地域住民や訪問者が楽しめる憩いの空間となっています。



45

管端つば出し加工機

CKフレアマシン500型

シーケー金属

2024.10 **AWARD**

GOOD DESIGN AWARD 2024

空調などの配管に使用される大口径のパイプの先端をつば出し加工する加工機。従来は溶接工法が主流だった大口径パイプにもつば出し加工が可能になり、作業時間や安全性の大幅な改善が実現しました。加工位置を低くすることで作業性を改善。丸みを帯びた親しみやすいコンパクトな形状にデザインされています。



46

介護予防・外出自主

トレーニングプログラム

SMARTふくしラボ

2024.10 **AWARD**

GOOD DESIGN AWARD 2024 BEST 100

Goトレは、SMARTふくしラボ(黒部市)が開発した介護予防・外出自主トレーニングプログラム。楽しみながら外出する・乗り物に乗る」などの行動を促します。今ある地域資源(施設、場、交通資源)を活かし、ウェルビーイングの実現とともに介護費、医療費の抑制、地域交通の持続可能性の実現に寄与します。



48

「metabolic」新発売

家具ブランド

燃やすことで再生を目指す

家's

2024.10 **SUSTAINABLE**

家's(高岡市)は北海道出身の伊藤昌徳氏が2017年に創業、家具のアップサイクル事業などを展開。古い桐タンスとアクリルを組み合わせたアップサイクル家具は海外からも注目を集め、近年ではホテルのリノベーションのプロデュースなども行っています。新ブランド「metabolic」は古くなった家具や調度品の表面を燃やし、オブジェや再生家具として製品化したもの。新店舗P/OP TOYAMAや東京でのPOP UPにて販売を予定しています。



49



50

井波彫刻の装飾品ブランド「井派(イッパ)」

2024.10 **SUSTAINABLE**

南砺市で活動している建築家・山川智嗣氏、プロダクトデザイナー・大治将典氏、彫刻家・前川大地氏らが中心となって井波彫刻の製品ブランド「井派」を立ち上げました。250年の歴史を持つ井波彫刻の技術と職人のネットワークを活かし、現代の暮らしに彩りを与えるペンダントライトやフック、パネルなどのインテリアプロダクトを開発・販売。他にも完全オリジナル、フルオーダーでの受注も行っています。

建築家、プロダクトデザイナー、彫刻家などがブランド立ち上げ

「遊び」がテーマのイベント

PLAY EARTH PARK Nanto Naturing Days 開催



52

ゴールドウイン

2024.10 **EVENT**

ゴールドウイン(小矢部市)は、南砺市と共同で遊びをテーマとするイベント「PLAY EARTH PARK Nanto Naturing Days」を開催しました。PLAY EARTH PARK NATURING FORESTの2027年開業に先駆けたもので、土で作られた有機的なランドスケープや、木玉のボールプール、空気であそぶクッション遊具などを展開。フランス人デザイナー・アレクシ・ジャメ氏のインスタレーション展示も行われました。



53

「美のこわけ」POPUP

販売とワークショップ

富山県総合デザインセンター

2024.11 **EVENT**

「美のこわけ」POPUPが11月8日・9日に無印良品 富山ファボーレ店で開催。美のこわけ商品の販売とワークショップ、ハーブティーの試飲が行われました。ワークショップでは、MUJI植物オイル3種と富山産の和精油3種をベースに、10数種の精油を組み合わせたオリジナルのフレグランスづくりにチャレンジしました(協力:bleu de ciel/ハミングバード)。



54

技術の歩み、モノづくりの精神を
発信する「YKK AP 技術館」を開設

YKK AP

2024.11 **LAUNCH**

2020年に創立30周年を迎えたYKK AP(黒部市)。「ファスナー会社がなぜ建材事業を始めたのか?」その歴史を正しく理解し、精神を受け継いでいくことを目的とする「YKK AP 技術館」が、2024年11月に竣工しました。建物は建材事業創業の地 富山県黒部市に1959年に竣工したアルミ溶解押出工場建屋をリノベーションして保存活用したものの、4つの時代にエリアを分類し、「発展」エリアでは断熱化技術を体感できるコーナーも設置。誰でも入館・利用できます。

「出会いたい富山の工芸」を発信する

ウェブマガジンを開設

TOYAMA KOGEI
Web Magazine



55

富山県 芸術振興課

2024.11 **LAUNCH**

富山県芸術振興課が、若手工芸作家を応援するためのWebサイトを開設しました。金属、木工、漆、和紙、ガラスなど、多様な工芸を持つ富山には、意欲的な若い作家が集まり、お互いに刺激し合いながら洗練された作品を生み出しています。本サイトは、富山の工芸と出会う場、作る人と使う人をつなげる場を目指しています。

富山がテーマの

ソーシャルギフト

「dōzo」から発売

大和×富山県総合デザインセンター

2024.11 **LAUNCH**

Z世代を中心に広がりを見せている、SNSを活用して贈り物ができるソーシャルギフト。大和(長野県)が展開するソーシャルギフトサービスdōzo(どーぞ)は、県総合デザインセンターとコラボし、海産物を詰め合わせた「チルオアシスとやま〜サカナ編」とサウナハットやボティオイルによる「同〜サウナ編」の2種類のテーマを発売しました。



56



錫を用いた
ジュエリーブランドが誕生

能作

2024.11 **PRODUCT**

鋳物メーカー・能作(高岡市)が、錫(すず)を用いたジュエリーブランド「NS by NOUSAKU」をリリースしました。コンセプトは「やさしく肌に馴染む、なめらかな錫ジュエリー」。素材には錫97%、金3%配合の独自素材「Tin Gold」を使用。軽くなめらかな肌なじみがよく、つけていてもストレスを感じにくい素材です。1stコレクションのテーマは「Ribbon(リボン)」。ユニセクスのデザインで、イヤークフ、ピアス、リング、ネックレスの全24種がラインアップ。デザインは建築家の永山祐子氏が手がけました。

農作業用品がファッショングッズに

腕カバー「ありなむ」誕生

勝星産業×そふつ

2024.12 **PRODUCT**

農作業や土木作業用品のメーカー・勝星産業(南砺市)が、製品の新たな用途開拓としてアパレル・ファッション業界に提案したところ、洋服店そふつ(東京都)とのコラボレーションが実現。防水透湿性の腕カバーを新しいファッションアイテムとして商品化することに、ブランド名は和歌の下句からとった「ありなむ」。通常のジャケットやシャツの上に着用すれば、袖部分をポリウムアップレインパウトを与えるアイテムになります。



59

セミオーダーできるサイン

「CRAFT SIGN PLATE」

富山プレート

2024.12 **LAUNCH**

精密板金加工の富山プレート(上市町)が、セミオーダーできるサイン「クラフトサインプレート」を開発、販売を開始しました。アクリル板の看板本体を木製の台座に差し込む自立型。アクリル板は8色から選ぶことができ、同社の精密刻印技術を用いて自由にデザイン可能。ピクトサインも用意されています。自立型サインに加え部屋表示のウォールサインも商品化。商業施設や公共施設などでの需要を見込んでいます。



61



62

リペアショップ

「ReForme」OPEN

ミヤモリ

2024.12 **LAUNCH**

縫製業のミヤモリ(小矢部市)は同市の三井アウトレットパーク北陸小矢部に衣料品のリペアショップ「ReForme(リフォルメ)」をオープンしました。大事な服を直しながらかく着たいというニーズを掘り起こし、BtoCビジネスの拡大を狙います。また同社では生地の裁断片を炭化させて再利用した鉛筆を製品化していますが、それに続く環境配慮型事業を収益の柱の一つに育てる考え。施設内店舗で購入した商品の直しのほか持ち込みにも対応します。

希少な神代杉を使った

「木々ノ箱」

駒井漆器製作所×松田木材

2024.11 **PRODUCT**

神代杉(じんだいすぎ)とは、火山噴火や洪水などで土中・水中にうずもれ長い年月を経過した杉材のこと。これまで和風住宅などに用いられ珍重されてきたこの素材を、日常使いの箱にしたのが「木々ノ箱」です。時によって作られたシックなグレーがかかった色味、破損個所にも漂う趣と唯一無二の存在感が特徴。駒井漆器製作所(高岡市)の繊細な木地加工技術、松田木材(上市町)の高度な製材技術、その2つが出合うことで実現したプロダクトです。



58



60

富山の祭り活性化事業共同企業体

2024.12 **PRODUCT**

「祭りで富山を元気に!」歴史ある伝統的な祭りを未来につなげるプロジェクト事業は、獅子舞の文化継承に繋げようと、オリジナルデザインの獅子舞グッズを開発。その第1弾として、老舗「島川あめ店」(富山市)とコラボした「とやまの獅子まめ」、自家焙煎コーヒー店「FLAT COFFEE」(立山町)とのコラボによる「とやま獅子舞ブランド」を商品化しました。

MoMAのバイヤーが認めた高岡鋳物

ミュージアムショップで販売

佐野政製作所

2025.01 **PRODUCT**

鋳物メーカー・佐野政製作所(高岡市)がニューヨーク在住のデザイナー・芳村朗氏と開発したダルマ形の箸置きが、ニューヨーク近代美術館(MoMA)のオンラインショップ「MoMAデザインストア」日本語版と、東京など国内6か所のMoMAミュージアムショップで販売されています。アルミ製でダルマとペーゴマをイメージさせる造形。専務の佐野秀亮氏は「高岡の鋳物の良さを世界の人たちに知ってもらえればうれしい」と語っています。



64

富山デザインコンペティション受賞

「KUMO」を発表

タカギセイコー

2025.01 **PRODUCT**

プラスチック製造のタカギセイコー(高岡市)は、富山の山々や海に浮かぶ雲の情景から着想を得た照明ブランド「KUMO」を発表。東京国際ナショナル・ギフト・ショー2025に出展しました。デザインはプロダクトデザイナー・古井翔真氏によるもので、「富山デザインコンペティション2022」のグランプリ受賞作品。製造にあたっては国内でも希少な回転成形技術を活用。2031年に創業100周年を迎える同社から、樹脂の可能性を広げるプロジェクトとして生み出されました。



66



68

富山をガラスの聖地に

ガラス工房30周年記念シンポジウム

富山ガラス工房

2025.02 **EVENT**

富山ガラス工房(富山市)が2024年で開設から30周年を迎えたことを記念し、シンポジウム「これまでの歩みと今後の展望」が2025年2月8日「TOYAMAキラリ」で開かれました。同工房はこれまで100人以上の作家を輩出。パネリストたちは富山が「日本のガラス文化の聖地」になっていることを紹介。開設当時から運営に携わってきた野田雄一名誉館長は「工房の一番の特徴は人を育てること」と人材育成に尽力した足跡を振り返りました。



69

南砺ブランド商品開発支援事業 実行委員会

2025.02 **LAUNCH**

合掌造りの五箇山や、木彫りのまち井波など、豊かな自然に恵まれた南砺市には、四季の移ろいの中で育まれて食文化や工芸の技があります。そんな南砺で作られる「食品」「酒・飲料」「工芸品」「日用品」などの逸品をセレクトし、通信販売でお届けするのが「南砺の逸品」。今年度は市内事業者から募集を行い、審査を経て、14商品の追加登録が行われ、追加商品を組み合わせた「ワインと干し柿とりゅう」限定ギフトボックスが発売されました。

3Dスキャナー導入

富山県総合デザインセンター

2025.03 **LAUNCH**

県総合デザインセンターでは、高速・高精度の3Dスキャナーを導入。これまで、図面のない製品や手加工された原型をデジタル化する重要な機器として活用されてきました。新たに導入された3Dスキャナーは、大型の自動車部品や光沢のある樹脂製品、複雑な工芸品など、さまざまな製造業界での利用が見込まれ、県内のものづくり交流拠点としての県総合デザインセンターの活用促進が期待できます。



65

食品専用ウォータージェットカッター

新発売



67

スギノマシン

2025.01 **PRODUCT**

スギノマシン(滑川市)は、超高压水で切断・加工する装置のシリーズとして、ケーキなどの菓子や食品のカットに適した食品専用ウォータージェットカッターを開発、パティシエやシェフの使用を念頭に発売を開始しました。自由形状のカットが簡単にでき、刃こぼれの心配も不要。固い冷凍品から柔らかい素材まで自在に対応。操作はタッチパネルで直感的にでき、カットロスが最小限になるよう調整する機能も搭載。クリエイティブな商品作りや、食品ロスの低減に貢献します。



70



63

「寿司といえば、富山」の
ロゴマーク発表
ブランド力向上へ

富山県

2025.01 **EVENT**

「寿司といえば、富山」のブランディング戦略を展開している富山県が、ロゴマークを決定しました。全国から募集したデザインの中から2候補を選定、県民などによる投票でタカダヒロアキ氏(大阪府)の案が採用されました。立山を象徴するスカイラインとにぎりずしのシルエットを特徴的に表現したデザイン。県は今後ロゴマーク入りのPRポスターを作成し、ブランディング戦略にまつわる事業やイベントなどで活用するとしています。

ミラノサローネ 2024 デザイントレンド報告

■期日／2024年5月24日(金)

■会場／富山県総合デザインセンター バーチャルスタジオ

富山県総合デザインセンターでは県内企業36社からなる「富山県商品開発研究会」を組織し、デザイン情報の提供をはじめ、商品開発や企業間の交流を推進しています。本年度1回目には、世界最大規模の国際家具見本市「ミラノサローネ」のデザイントレンド報告を実施。30数年間にわたり同サローネの視察・取材を続けてきた県総合デザインセンター所長・桐山登士樹による報告とトレンド分析が行われました。

2024年の概要

今年で62回目を迎える国際家具見本市ミラノサローネ。最近ではミラノデザインウィーク(MDW)との呼称が一般的になってきた。MDWは2000年のイタリアのEU加盟を機に国際見本市として規模を拡大し、世界中の企業やアーティストのブランド展開の場となっている。近年ではそこに「資源」「環境」「マテリアル」といった課題が顕在化している。

来場者数は6日間の会期で361,417人、前年度比17.1%増となった。来場者の内訳はイタリアが一番多いが、2番目が中国で13.1%を占める。日本はかつて5位程だったが、近年は下位に甘んじ、今年はロシアの3.4%にも及ばない2.0%だった。マーケット的に拡大しているのは、中国、インド、ブラジルなどである。

様々なプロジェクトたち

東京を拠点に活動するYOYの展示「SNOW by YOY」は雪の結晶に着目したもの。自分たちが何に着眼するのか、その



SNOW by YOYから雪の結晶

センスや感性はこれからの時代ますます重要になってくる。

照明器具メーカー・アンビエンテックはガラスや陶器などの廃材を材料に左官技術で仕上げた照明器具を出展していた。リユース、アップサイクルは大きな流れになっている。



今回のMDWで一番目を引いたLOEWEの工芸展

デザイナーの登竜門であるサローネサテリテには、富山デザインコンペティション2023グランプリ受賞者である山本アアをはじめ、西原海、岩松直明、デザインセンターとも関係のある進藤篤、薄上紘太郎などが作品を発表していた。



サテリテ出展の山本アア氏

日本からはワイヤー金具調整機構の荒川技研工業、イツセイミヤケ、京都西陣

HOSOO、城端にルーツを持つ川島織物などが目を引いた。

富山県(高岡・南砺)からはおりん職人(島谷好徳氏)・菅笠作家(中山煌雲氏)・絹織物作家(松井紀子氏)のグループが、トヨタ紡織とともに「数値化できない心地よさ」をテーマとした空間展示を行っていた。

まとめ

既存事業の延長上には未来はない。次の時代がどうあるのかを予知予測しながら再構築していく必要がある。その意味で企業のリソースをR&Dで再構築し新たな価値を創造していく「リサーチプロジェクト」は非常に重要なものになる。そしてそのプロセスにデザイナーをはじめとするクリエイティブな人たちが入って来ることが大事だ。

これまでデザイナーは、モノのデザインやブランドに関与していたが、もう一度自分たちの足元(コーポレートリソース)を見直し、新たなスキームや動きを作っていく必要がある。そのことをMDW2024を見て改めて感じた。



we+が手掛けたElicaはメディアパートナー特別賞



Sharing the daily life of Toyama,
home to the abundance mindset and healthy body.
Giving you the unique and delicate Toyama moment,
from Toyama

富山の日常にあふれる美と癒しのコンテンツをあなたの日々にお届けしたい。
そんな思いから生まれた「美のこわけ」は、
こころもからだも豊かで健やかな富山の日常を「おすそわけ」するプロジェクトです。



美のこわけ 公式サイト

美の
こわけ

2024年度新商品、テーマは「睡眠」

「美のこわけ」は、富山県ならではの伝統的習慣「おすそわけ」をコンセプトにした、「幸のこわけ」「技のこわけ」に続く第3弾となるお土産ブランド。2022年に誕生以来、スキンケアコスメなどのビューティーアイテムを詰め合わせたシリーズを商品化してきました。販売開始から3年目を迎え、より幅広い層に関心を寄せてもらえるよう、今回着目したのは「睡眠」。質のよい睡眠は「美」の大切な要素と捉え、睡眠にアプローチする新商品をラインナップ。パッケージも一新しました。

睡眠研究者が監修

新シリーズは、睡眠・生活研究所所長 神川康子氏(富山大学名誉教授/博士)監修のもとに開発されました。

立山町の古民家でローンチイベントを開催

■期日／2024年11月22日(金)

■会場／埜の家(富山県中新川郡立山町四谷尾691-4)

ローンチイベントでは、神川康子氏と県総合デザインセンター所長・桐山登士樹とのトークが行われました。話題となったのはやはり「睡眠」。

「質のよい睡眠」というテーマで本年度の美のこわけの企画を進めていたチームのもとに、気になるニュースが届けられました。それは「富山県民の『睡眠で休養が十分に取れていない』率が48%を超え、7年連続全国ワーストを記録した」というもの(協会けんぽ調査)。「ウェルビーイング」を成長戦略の中心に位置付ける富山県としては、不名誉な調査結果です。美のこわけチームは、改めて「睡眠の質改善」というテーマの重要性を再確認。その結果として今日のローンチを迎えるに至った経緯が紹介されました。

今回の美のこわけの監修者でもあり、50年にわたって睡眠を研究してきた神川氏は「6~7時間の睡眠」と「足りなければ昼寝(15分程度)などで補う」ことの有効性を教示。さらに香りと眠りとの関係性に触れながら、森林の香りの中に含まれている香気成分の鎮静効果・入眠効果や、自然由来のアロマが睡眠に果たす役割などにも言及。参加者に「眠り」の重要性を伝えました。





能登の未来を築く — みんなで考える復興 —

■ 期日／2024年7月10日(水)
■ 会場／富山県総合デザインセンター バーチャルスタジオ

Photo:Junpei Harada @peiphoto

2024年1月1日、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の大地震が発生。建物の倒壊や火災、インフラ断絶などの被害が広範囲に及び、国の重要無形文化財・輪島塗をはじめとする伝統工芸品も、多くの生産・販売拠点が倒壊、焼失するなど甚大な被害を受けました。またこの地震は、被災地支援のあり方や伝統工芸の継承など、日本全体が抱える様々な課題も浮き彫りにしました。震災後いち早く、「他人事を自分事へ」をコンセプトに多様なアイデアで伝統工芸産地の復興に携わってきた鈴木啓太氏。その活動を紹介してもらいながら、未来を創る復興のあり方、持続可能な地域経済、伝統工芸の未来を構築するビジョンを考えました。



GUEST SPEAKER

鈴木 啓太 (すずき・けいた)
デザイナー、株式会社プロダクトデザインセンター代表

1982年愛知県生まれ。多摩美術大学卒業後、NEC、イワサキデザインスタジオを経て、2012年に(株)プロダクトデザインセンターを設立。日用品から鉄道車両まで多岐にわたるプロジェクトを手掛ける。「人」と「物」の対話をデザインの核心に位置づけ、人々の暮らしを豊かにする機能と美意識を融合させたアプローチで、物と文化の歴史を独自の哲学で形作っている。伝統工芸や人間国宝とのコラボレーションも多い。2015年～2017年(公財)日本デザイン振興会「グッドデザイン賞」の最年少審査委員、2023年グッドデザイン賞審査委員。2024年現在、金沢美術工芸大学のほか東京藝術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学でも授業を担当。



1月からの活動

私は幼少期より工芸や美術の影響を強く受けた多くの工芸に囲まれて育ってきた。能登は震災以前から何度も訪れ、その風土や人に愛着と思い入れを持ってきた。土着の工芸である輪島塗に魅せられ、そこから多くを学んでもきた。1月の震災の時は、大規模な火災が起きた地域の近くに友人や知人が住んでいたこともあり大変なショックを受けた。親しくしていた塗師屋さんの事務所がほぼ全壊の被害を受けた。「復興のために私にできることはないか」と1月後半くらいから東京を中心に活動を始めた。現地の人や経産省、復興庁と連絡を取り合い、2～3年後を見据えた3つのフェーズからなる段階的な復興支援計画を

つくった。①在庫や道具の引き上げ・職人仕事の再開、②工房の設置、③能登に工房を再建する…というものだった。

しかし2月になると能登のニュースの頻度は少なくなった。連絡を取り合っている輪島の人たちからは忘れられてしまいそうな不安を訴える声が多く届いた。忘れられないためには現状を伝えることが必要と考え、救出された工芸品の数々を撮影し、それを公開する活動を始めた。そしてその延長で展開したのが、プロジェクト「HOPE with NOTO」だった。

HOPE with NOTO

「手を動かさなければ腕が鈍る」という声に応えるため、2月には石川県能美市に避難した職人が働ける仮設工房を立ち上げた。九谷焼の加飾の仕事をしてもらうほか、震災で壊れた九谷焼を漆の「金継ぎ」で再生する新しい工芸づくりにもチャレンジ。並行して代々木体育館やBunkamuraで被災した工芸を展示する催しも行った。

能登を通じて私たちは、伝統工芸の未来

を考えることができる。後継者や流通などの問題を抱えつつも、地方と工芸は大きな可能性に溢れている。大量生産が終焉に向かっていく時代の中で工芸は日本の美意識やモノづくりの象徴であり、デザインもまた工芸に向かっており、工芸的なニュアンスや技術で繊細なものをつくることが求められている。工芸を中心としたモノづくりや持続可能な地域経済がありうるのではないかと私は考えている。

NOTO NEXT

以上のような思いで6月、東京丸の内では「能登の未来を考える みんなのアイデア展 NOTO NEXT」を20日間にわたって開催した。期間中は15回のトークイベントを開いた。来場者にはグラフィックレコーディング(グラレコ)の手法で、用意したボードにアイデアをどんどん書き込んでもらった。イベントに参加できなかった来場者もそのボードを見て、自分のアイデアや応援メッセージを書き込むことができる。これによって復興を「自分事」として考えるきっかけ



TOKYO CREATIVE SALON 2024 代々木体育館 Photo:Taki Yoshimura

D I S C U S S I O N

鈴木啓太氏の講演に続き、金沢美術工芸大学教授・河崎圭吾氏と県総合デザインセンターデザインディレクター・岡雄一郎を交えたディスカッションが行われました。

河崎教授からは、研究室で行われている学生が主体となった復興支援活動の現状報告が行われました。また、日本は世界でも稀有な工芸の蓄積がありそれが今も残り続ける国。日本のものづくりの価値、その元は工芸にあることに学生たちも気づきつつあると指摘。これからの産業にも工芸の力を活かしていく必要性が説かれました。

鈴木氏は、自らの技術錬磨に精いっぱい職人には情報発信は難しく、孤独にさせない横のつながり、他の工芸、他の産地の職人同士との交流が必要だと指摘。

岡は、一見すると復興に向けての動きが無いように見えるが、学生たちの活動も含め様々な試みがなされている。それを社会に向けて伝え支援していくことが必要だと述べました。これを受け鈴木氏も、悲慘なニュースは日が経つにつれ、忘れられていくもの。メディアの報道を待つのではなく、新しく湧き上がっているものをメディアに向け、あるいはSNSなどで社会に向け、発信していくことの重要性に言及していました。



けを得ることになる。15回のトークイベントは収録しSNSを使って拡散していった。

トークセッションで見えてきたもの

15回にわたるトークイベントには金沢美術工芸大学の学生や石川県の副知事、輪島塗の職人、デザイナー、企業経営者、編集者、報道機関など多彩な人々が参加した。イベントやグラレコには、展示会を北前船のように巡回させる、各地のツアーやフィールドワークをするといったアイデアが出された。

一連のトークセッションを通じて私は、能登の魅力に改めて気づかされるとともに、若者たちの力のすごさを感じた。また復旧・復興の知恵を形に残し共有できるようにしておく必要性や、日常から備えるためのコミュニティなどの大切さ、復旧・復興「3年の壁」を突破し地域に定着させるための工夫などについて考えさせられた。そして何よりも、「日本オワコン」として育ってきた若者世代が希望として能登を捉えていることに感銘を受けた。

クラフトアイランド構想

現在、石川県の人たちと共に進めている構想がある。たくさんの職人が住み、作業を見せながら作品を販売していく、そんなクラフトの聖地を、能登島につくろうというもの。検討委員会をつくり進めているので、ぜひご注目頂きたい。

デザイン、工芸、アートを融合 新しいものづくりに挑むアルチザン集団

■ 期日／2024年8月21日(水) ■ 会場／(株)secca(金沢市)

本年度4回目の富山県商品開発研究会では、金沢市の(株)secca(雪花)の視察見学会を行いました。seccaは創業12年目を迎えるクリエイター集団。デザインと伝統工芸、アートの分野を自在に行き来するものづくりで注目を集めています。この日はseccaの来歴や事業領域、作品などを代表の上町達也氏にご紹介いただき、工房を見学。その後、石川樹脂工業(株)(加賀市)専務取締役の石川勤氏に、seccaとともに開発してきた自社食器ブランド「ARAS(エイラス)」についてお話いただきました。

第一部 上町達也氏 seccaのConcept&Works

seccaの設立について

seccaは設立から12年目を迎える。seccaのミッションは「新しい価値の造形」。自らの工房でもものを作っているのだが、「どう価値を作るか」「求められる新しい価値をどう形づくっていくか」をいつも念頭に置いている。

私は金沢美術工芸大学卒業後ニコンに就職し、プロダクトデザイナーとしてカメラや顕微鏡など光学機器のデザイン開発に従事してきた。secca創業メンバーの柳井友一も金沢美大卒業後にビクターでプロダクトデザイナーとして働いてきた。私も柳井も新規開発系のチームに在籍していた。そこでは小さな製品でも5年ほどの時間をかける。何百ものモックアップを作り社長プレゼンをし、ようやく世の中に上市する。しかしそういう製品であっても、わずか

1年後にはワゴンセールに出される。自分が報われない、というよりもその価値の消費の速さに驚かざるを得なかった。もっと丁寧な価値創造、価値交換の在り方はないのだろうか。そんな疑問が、創業のきっかけとなっている。

seccaではあくまでも「数」を目的とせず「価値」を中心に置き、数が求められれば量産にも移行するし、価値を最大化するための一点ものの制作も行っている。

デザインとは「問いを立てる」こと

「デザインする力」がこの会社のベースだが、デザインは単にきれいな形やきれいな色をつくることではなく、どういう「問いを立てるか」「今の時代に何が求められるか」という企画の骨子の部分が大事になってく

ると考える。

デザインの素養のある人間が会社を立ち上げると、往々にしてデザイン事務所ということになるが、「自分たちの手で作ったものを直接手渡していきたい」という思いがあったのでメーカーを志向した。少しずつモノを作る環境を作り上げ、工芸技術を持った人にも加入してもらうなどしてきた。「デザインを問いかける力」と「形にできる工芸の力」これらを併せ持った組織がseccaである。

「巧藝(KOGEI)」というコンセプト

私たちは自分たちが作り出しているものを「巧藝」と定義している。日本の「工芸」に着目してきたが、明治期には「工業」の意味で工芸という言葉は使われてきた。ウィーン

万博をきっかけに「美術工芸」を意味する言葉へと変容し、その後「民藝」や「生活工芸」が生まれてきた。こうした流れの中でseccaは、匠の技術で丁寧に作り上げたものを、丁寧に手渡していきたいという思いを込め「巧藝」というコンセプトを掲げている。

seccaの事業

seccaの事業は大きく次の2つ。

- ①自社のアトリエで制作する一点ものから数点までのオリジナルの製品づくり。
- ②デザイン受託事業。
量産するに値するものがあつた場合には、日本の優れた技術を持つ量産メーカーと手を組み、社会課題を解決できるものづくりにデザイナーとして関わっている。

石川～金沢へのこだわり

私は岐阜県、柳井は島根県の出身。seccaのメンバー8人中7人が石川県以外の出身者だ。なぜ私たちがこの場所起業しようと

したのかというと、「ものづくり」と「食」、この双方がある街だから。またこの街には前田藩以来いろんな工芸職人がいて、そうした職人の方々と「一緒に作る=co-creation」共創していきたいと思ったからだ。

seccaのものづくりのジャンル

私たちのものづくりには、大きく3つのジャンルがある。

①Shingi(シンギ) ホテルやレストランのエントランス・オブジェに代表される彫刻作品などの象徴物。後醍醐天皇の言葉「朕が新儀は未来の先例たるべし」から引用して命名した。



②Landscape Ware 食体験のデザインをテーマに、プロの料理人、バーテンダーなどにテーブルウェアを提案している。

③Singular ギターメーカーで長年にわたり技術を学んできた北出斎太郎がメンバーに加わったのをきっかけに自分たちの楽器ブランドを立ち上げた。プロの音楽家の「音楽表現を最大化するための音源装置をつくる」をコンセプトに手作りでプロダクトを生み出している。



第二部 石川 勤氏(リモート登壇) 開発事例：石川樹脂工業のARAS

石川樹脂工業(株)について

私は東京大学工学部を卒業後、外資系消費財メーカーで約10年間勤務。その後父親が経営する石川樹脂工業に入社した。石川樹脂工業は石川県加賀市に本社を置く企業で、新幹線の枕木、水道の点検口の蓋といった強度を要求される樹脂製品を製造している。ほかにも外食チェーンのコップ、店内用グラスなども生産している。

私が入社したころは、低賃金、少休日、外国人実習生頼みの労働力、デジタル化の遅れ…などによる低生産性に悩まれ負の循環に落ち込んでいた。また扱っているのがマイナスイメージの強いプラスチック素材であることなど、厳しい状況の中にあつた。

しかし「何でもやろう」というチャレンジ精神と匠の技術、またプラスチックの技術進化も、逆境の中での明るい材料だった。

「ARAS」プロジェクト

プラスチックの特徴は①石油精製過程で生成する副産物である、②技術的に進化を続け新しい樹脂が毎年生まれている、③成形／再生利用において要する熱エネルギーが少ない低エネルギーで循環できる素材である。ARASはこうした樹脂の可能性を生かすためのプロジェクトとしてスタートした。

seccaの工房で石膏の原型を作り、手加工で凹凸をつけ、それを3Dスキャンしてデジタルデータ化、3Dモックを作りそれを評価しながら制作するといった新しい開発スタイルに挑戦した商品もある。

脱「プラスチック」

プラスチック(偽物・安物)ではない樹脂の魅力を2年間にわたりseccaとともに議論し試作を重ね、2020年に誕生した。



重量感、高級感、重厚感…ハイエンドレストランでも使える佇まい、「割れない食器」としての長所を発揮できる製品として作り上げていった。

2020年2月に「テーブルウェアフェスティバル」でデビューしたが、日本はコロナ禍に陥った。そのためクラウドファンディングでローンチしたのだが、多くの消費者から熱い支持を得ることができた。また消費者からの支持のみならず星野リゾートにも採用されるなど、ホテルやレストランなどにも需要は拡大している。

ばっかいんぐ

ものづくりにクリエイティブな始末を

BACCAIng(ばっかいんぐ)は、富山県と公益財団法人富山県新世紀産業機構がサーキュラーエコノミー(循環経済)の構築の一環として取り組むアップサイクル創出プロジェクト。ものづくりの工程で、やむなく捨てられてきた価値あるものたちに光を当て、クリエイティブの力でもういちど息づかせたい。ものづくりのまち、富山ならではのアップサイクルを探る試みです。

【概要】

国際情勢の流動化、生産年齢人口の減少など、ものづくり産業を取り巻く環境が大きく変化し、サーキュラーエコノミー(循環経済)の構築など、新たな環境・社会価値の創出が求められています。富山県と(公財)富山県新世紀産業機構は、2024年3月に改定した「富山県ものづくり産業未来戦略」に基づき、成長が期待されるサーキュラーエコノミーなどの異業種連携による価値の創出、産学官連携でのオープンイノベーションによる研究開発など、ものづくり産業の飛躍・発展を目指して競争力の更なる強化への取り組みを始めました。令和6年度は、「廃材活用／アップサイクル」をテーマに異業種連携による新たな価値の創出に向けたカンファレンスを開催しました。



ばっかいんぐ という活動名は、「始末」を意味する富山の方言「ばっかい」に由来します。始末とは、ものごとの始めから終わりまで責任をもって関わり、きちんと全うさせること。ムダにしないという意味も含まれます。このばっかいの心がけを常に忘れず、そして継続するという意志を込めてIngをプラスしました。

【BACCAIng Member】

- 地元ものづくり企業
- 富山県商工労働部
- 富山県総合デザインセンター
- 富山県産業技術研究開発センター
- 富山大学
- 富山県立大学
- 富山県新世紀産業機構
- トリニティ株式会社

Conference #1

企業視察 (株)ミヤモリ (小矢部市増生208)

【期日】 2024年9月9日(月)

スポーツウェアや学校体操服を中心に年間60万着の縫製を手がける(株)ミヤモリを訪問。同社では年間20トンも発生する布地の「裁断くず」を炭化させ、それを鉛筆の芯に用いた「服の鉛筆」®を開発するなど、ユニークな活動を展開しています。視察後のディスカッションでは、「捨てない」を促進するためのリペアの仕組みづくりや、余剰品を抑制する生産体制、企業のミッション・ビジョンを社内に浸透させる大切さなどについて意見交換がなされました。

Conference #3

企業視察 (株)トヨックス (黒部市前沢4371)

【期日】 2025年1月17日(金)

訪問先は、耐圧ホースと継手製造の(株)トヨックス。同社では原材料樹脂のリサイクルに早くから取り組み、製造ロスの再生原料化を実現してきました。同社のリサイクル工場を見学後は、県総合デザインセンターに場所を移し、トヨックス社員の方々にも参加いただき、製造工程で発生する「ドベ」や「ダンゴ」と呼ばれるプラスチック材料の残滓(ざんさい)や使用済み部材の活用など、アップサイクルをテーマにディスカッションが行われました。



Conference #2

企業視察 (株)リッチェル (富山市水橋桜木136)

【期日】 2024年10月25日(金)

訪問したのは、ハウスウェア用品からエクステリア用品、ライフケア用品などプラスチック製品を手がける(株)リッチェル。不良品などの再生活用の様子を見学するとともに、品質基準維持のために廃棄品が増えてしまう、複数の樹脂を混合したプラスチック製品のリサイクルの難しさ…といった課題もヒアリング。ディスカッションでは、再利用の技術的な難易度やコスト、生活者の理解や意識変革の必要性に焦点が当てられ話し合いが行われました。



Conference #4

総括

【期日】 2025年2月28日(金)

これまでに行われた3回のカンファレンスの総括が行われました。また富山大学芸術文化学部学生、(株)家's(高岡市)、(株)本瀬齋田建築設計事務所(富山市)が、それぞれのアップサイクルへの取り組み事例を紹介。来る2025年度活動の方向性が確認されました。

とやまのサ活

とやまのサウナの魅力をみんなで考える

近年盛り上がりを見せる「サウナ」。県内でも新しいサウナ関連施設が次々と開業。ものづくりの現場でも、自社技術を応用した様々なサウナグッズの開発が行われています。またサウナを通して、立山連峰と富山湾によって育まれた豊富で清らかな水をはじめとする富山の豊かな自然環境が見直されています。富山県は「幸せ人口1,000万〜ウェルビーイング先進地域、富山〜」を県の成長戦略ビジョンとして打ち出しており、この「ウェルビーイング」はサウナにおける「ととのう」とも共通するもの。全国に1,700万人のファンを有する超巨大市場でもあるサウナを、富山を盛り上げる起爆剤にしていきたいー今回のトークイベントでは、〈サウナ〉にまつわるさまざまな立場のゲストをお招きし、多彩な視点から「富山のサウナの魅力」を語り合いました。



板野 雄太

富山のものづくりや自然、食の魅力を総合的にPRするための視点として

県総合デザインセンター 研究員 「サウナ」に着目した取り組みを企画・提案。

サウナには、疲労回復、ダイエットや美容効果などの「身体的メリット」と、ストレス解消やリラクセス効果といった「精神的メリット」、これら心身共に整うことで働き方にも良い影響が期待される「社会的メリット」があると言われています。富山県では「幸せ人口1,000万〜ウェルビーイング先進地域、富山」を成長戦略のビジョンとして打ち出しており、「サ活」をその起爆剤の一つとしていきたいと考えています。「薬都・富山」を基点としたボタニカルなサ活など、富山の歴史や風土、ものづくり力を活かした独自のサウナコンテンツを発信していきたいですね。

菊田 優

CoHoKa

高岡市出身。北陸のお風呂屋さん、お風呂ファン・サウナファンをつなげるブランド「CoHoKa(コホカ)」を運営。

2021年から「地産地湯」をテーマに、お風呂屋さんと温浴ファンをつなぐCoHoKaというブランドを掲げ、イベントと物販の両面で活動しています。温浴施設とタイアップして、北陸産アロマを使ったロウリュウや変わり湯、植物の枝葉を束ねたもので身体を叩くことで血行促進するウイスキング、ファン同士の交流会などを企画。「地」のものをお風呂で使おう、ということで北陸の材料を用いたサウナマットなどのグッズやナチュラルハーブオイルなどの製造販売も行っています。北陸は温浴文化が根付いた土地。お風呂好きな方とのつながりを大切に活動を続けていきたいと思っています。

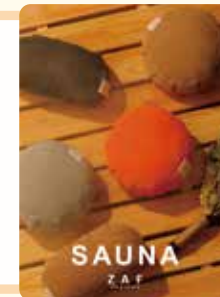


竹澤 賢人

サカエ金襴(株) 取締役

仏具の町・高岡市で、寺社仏閣で使われる織物製品を手がけるメーカー「サカエ金襴」取締役。近年では心と身体を調えることを提案するブランド「ZAF」を展開。

当社は繊維製の仏具メーカーで、禅僧が瞑想するときに用いる座禅布団をモチーフとしたZAF、そのサウナ版であるZAF SAUNAを製品化しました。禅のお寺では昔から入浴も修行のひとつと考えられており、当時のお風呂は蒸し風呂、今でいうところのサウナ。禅とサウナはつながりが深く、こうした発想のもと「サウナ室で座禅」をコンセプトとするイベント「サ禅」を、禅寺・最勝寺とサウナ施設・サウナタロ トヤマとのコラボで定期的に行っています。



水越 勇人

湯屋FUROBAKKA 支配人

薪サウナや黒部の天然水をふんだんに使った水風呂など富山ならではのサウナ体験ができる湯あそびテーマパーク「湯屋 FUROBAKKA(ゆや ふろばっか)」支配人。

FUROBAKKAは大浴場、家族風呂、薪ストーブを使用したサウナを備えた全国でも有数の複合型温浴施設。肌あたりの優しい黒部の水は水質の高さで富山の中でも突出しており、「ここの水で焼酎を割ると甘く感じる」とボトルで水を持ち帰るお客様もいます。また当施設では、焚火を囲んでのトークショーなど、黒部の自然とサウナを楽しんでもらえるイベントも実施しています。富山の温浴施設は全国的に見ても高いクオリティを誇っている。今後は、サウナ+景観、サウナ+食べもの…のような組み合わせで、富山のサウナの魅力を訴求していきたいと思っています。



茂木 新之助

(株)大和 パイヤー

「ほしいものを選んで受け取れる」カジュアルギフトサービス「dōzo/どーぞ」で「サウナ」と「サカナ」をテーマに富山の魅力を伝えるギフトサービスを展開。

富山で企画制作されたサウナ関連商品をピックアップした「チルオアシスとやま〜サウナ編」を販売開始しました。カタログギフトのスキームを使い、富山のサウナの魅力を全国に発信していく企画となっています。「販促プロモーション」という立場から、富山の「サ活」をバックアップしていければと考えています。



優れた富山プロダクツとして 今年度18点を選定

富山県総合デザインセンターでは、富山県内で企画または製造されている性能、品質及びデザイン性に優れた工業製品を「富山プロダクツ」として認定する富山プロダクツ選定事業を毎年開催。

富山ブランドとして国内外に情報発信し、企業の販路開拓を支援しています。選定商品を生産・販売する企業には、商品の紹介パンフレット作成や、各種展示会への出品について県が支援を行うほか、共通シンボルマークの使用が認められます。

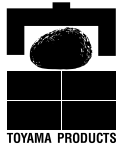
【スケジュール】
6月3日～8月30日 集中募集期間
9月6日 選定委員会の開催
10月1日 富山プロダクツ選定証交付
11月 富山プロダクツ2024 PRリーフレット発行
12月14日～2025年2月9日 富山プロダクツ2024展 (D&DEPARTMENT TOYAMA)

選定商品はWEBサイトにて公開しています。



富山プロダクツ
products.toyamadesign.jp

【選定委員】
●委員長
桐山 登土樹 県総合デザインセンター 所長
●委員
内田 和美 富山大学芸術文化学部 教授
加藤 健 (公財)富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長
進藤 仁美 ディアンドデパートメント(株) D&DEPARTMENT事業部 富山店 店長
日野 利 高岡市デザイン・工芸センター 所長
茂木 新之助 (株)大和 マーケティング部 部長
岡 雄一郎 県総合デザインセンター デザインディレクター



令和6年度 富山プロダクツ選定商品

表記数字は、選定番号です。

403



ゴミステーション・マルチボックス
ホームスライドダスポン
プレミアムモデル (株)ナカノ

耐久性・堅牢性を兼ね備えたスタイリッシュなマルチボックス。形状の美しさや48色から選べる豊富なカラーバリエーションから、ゴミステーションや宅配ボックスなどあらゆるシーンに合わせて使用できる。

404



サウナハット
のぼせスラズ (株)今井機業場

ストレッチ性・速乾性・通気性を持つ経編ニット(トリコット)生地を使用。生地には機能糸を編み込んでおり吸放湿性・接触冷感性に優れ、頭部にフィットする形状はサウナで快適に過ごせるよう設計されている。

405



置き風りん
かざりん 円 (まどか) (株)山口久乗

涼やかな余韻をゆつたりと楽しめる大きさの「久乗おりん」を使用した置き風りん。円窓をイメージするフレームは和洋どの空間にも合う。風流で品の良さも感じる、お部屋の音のしつらえ。

406



かたみいれ
みごころ (株)山口久乗

宝珠の姿にも見える形見入れ。その中に入るの是一つ一つ特別な存在。高岡伝統の百人百様の職人の技で「百様玲瓏」のすぐれた品々に仕上げ、遺された人たちの想いに応える。

407



卓上鈴
みつわりん (株)山口久乗

鳴らした後に置いても、いつまでも長くゆらく音色が魅力の「久乗おりん」の卓上鈴。生型で鋳込んだおりんを吊るす三脚フレームは職人の手仕事。生型鋳造とは思えないほどシャープな仕上がり。

408



室内遊具
トライ いろいろ遊べる
ゆらゆらボード (株)リッachel

赤ちゃんから遊べる、遊びながらトレーニングができる室内遊具。子供の成長に応じた遊び方ができるため、ベビーからキッズまで長い期間遊べる。遊び次第で運動能力・バランス能力・集中力など様々な身体能力を育める。

409



ティスペンサー
hover シリーズ (株)リッachel

新設計の液体吐出し口により、ヘアケア用・食器用・住居用洗剤等と汎用性が広がった壁付けティスペンサーシリーズ。液体を出すプッシュ部を大きくし、日常の操作性も向上。

412



箸置き
リアル富山県箸置き (株)竹中銅器

富山県の立体地図をモチーフにした箸置き。立体地図のデータを読み込んで3D出力したリアルな原型を、純錫鋳物で製作。「富山湾鮎」をはじめ、富山県の美味しい料理を食す場面に。手にとって水平線の視点で見ると一興。

415



サウナターバン
北陸産 サウナで使える
マルチターバン 北陸の地産地消 CoHoKa

サウナの中では熱対策のハット、お風呂の外ではターバンやネックウォーマーに。ゴムを使用せず、360度ストレッチする特殊なバイルニットを使用。とても柔らかく、優しい肌触りで程よい吸水性と保温性がある。お風呂の中でも外でも、貴方のお供になる万能アイテム。

418



サーマルボトルクーラー
Thermal Bottle Cooler
HIMURO:S (有)四津川製作所

アルミの熱伝導性とヒノキの保温性を融合したボトルクーラー。二重底の中に氷を入れることで内壁全体に冷たさが伝わりボトルを濡らすことなく冷たい温度を保てる。ねじりタガの木桶をイメージした日本酒に似合う和のデザイン。

410



ペット用テーブル
たためるペットテーブル (株)リッachel

折りたたんでコンパクトに収納できる食器台。床置き用は組み立てと片付けを簡単に行える。サークル用は体高に合わせた高さ調整と、取り付けたまま折りたたみが可能。テーブルを取り外して水洗い出来るため、いつでも清潔に使える。

413



インテリアオブジェ
colm_koi
colm_hina colm design

独自の革しほり製法でつくった本革製の鯉のぼりとひな人形。伝統的な節句飾りの要素を取り入れながらモダンで洗練されたデザインが特徴で現代のインテリアにも美しく馴染む。

416



サウナ用クッション
ZAF SAUNA サカエ金欄(株)

僧侶が坐禅を組む際に使用する「坐禅蒲団」をサウナ用にチューニングしたサウナ用瞑想クッション。坐禅スタイルで座ることで側面のヒダが弧がりS字姿勢に導く。素材は耐熱温度の高く、速乾性のあるものを採用し自宅の洗濯機で丸洗いが可能。

419



サーマルボトルクーラー
Thermal Bottle Cooler
HIMURO:S (有)四津川製作所

アルミの熱伝導性とヒノキの保温性を融合したボトルクーラー。二重底の中に氷を入れることで内壁全体に冷たさが伝わりボトルを濡らすことなく冷たい温度を保てる。ねじりタガの木桶をイメージした日本酒に似合う和のデザイン。

411



木製プレート
木紋 (KIMON) 澤井建築

行き場を失った立山杉の小口断面を組合わせた後、伝統的な浮造り加工を施し、富山で時を刻んだ年輪と美しい木目を際立たせ、規格的ながらそれぞれが唯一無二の個性を放つ、多用途でサステイナブルな木製プレート。

414



精米機
MAIKO PL-03A (株)タイワ精機

精米機専門メーカーならではの業務用技術をもった活かした本格派家庭用精米機。玄米を食べやすくする1ぶづきから白米まで、お好みに合わせて15段階で調整可能。

417



ガラスのうつわ
lampieni 新光硝子工業(株)

ガラスの透明感と滑らかな曲面が美しいうつわ。フルーツボウルやフラワーベース、小物入れ等として。板ガラスを曲げただけのシンプルなデザインは、うつわの上に置かれたものを引き立てる。

420



カーポート型太陽光パネル架台
エネジアース 三協立山(株) 三協アルミ社

カーボンニュートラル実現向け、急拡大しているソーラーカーポート用のアルミ構造架台。国内一貫生産による高品質、カーポート同基準の排水性能、シャープな屋根椋など、機能性と意匠性に優れる。

創造的な産地をつくる —支える・作る・売る・醸す—

■期日／2024年9月19日(木) ■会場／D&DEPARTMENT TOYAMA



デザインの再発見や、デザイナー・異業種間での交流促進を目的に開催する「ナイトフォーラム」。キャリアなど社会的な立場、周囲との人間関係や地域社会とのつながりなども含めて、自分らしくいきいきと生きられることを実現するためには、住民一人ひとりが自信と誇りを持って、地域に根ざした活動に取り組むことがカギ。福井県鯖江市を拠点に活動する新山直広氏が提唱する「インタウンデザイナー」が地域の課題をどう解決していくのか、その活動についてお話をいただきました。

インタウンデザイナー

私は「役所出身のデザイナー」という不思議なキャリアの人間で、現在デザイン事務所TSUGIと、SOEという観光まちづくり会社を運営している。「インタウンデザイナー」として活動しているのだが、この呼称は「特定の地域を活動の舞台に、その土地の地域資源を活かして新たな価値を生み出し、地域をあるべき姿へ導くプレーヤー」という意味で用いている。

ものづくりの街「越前鯖江」

私が活動しているのは、鯖江市・越前市・丹生郡越前町の三市町で、総称して「越前鯖江」と呼ばれている。鯖江は「メガネ」の

街。メガネフレームの国内生産シェア96%、メガネ会社530社、6人に1人がメガネ関連従事者だ。TSUGIがある河和田地区(鯖江市)は「越前漆器」の産地で出荷額は日本一。他にも「越前和紙」「打刃物」「タンス」「越前焼」「繊維」…越前鯖江は、これら7つの地場産業が半径10kmのエリアにある日本でも珍しい地場産業集積地である。

転機となったのはリーマンショック。それまでOEMでしていた仕事がなくなったため、自分たちで商品をつくって売らねばならなくなりBtoC展開が始まった。それその産地の工房の一部を改修するなどして、この10年で35もの新規店舗が開店。近年では県外からの来店者も増えている。また移住者も爆増している。河和田地区だけでも130人もの若者が移り住んで働いて

いる。初期に移住してきたのは職人たちで、次いでデザイナー、第三世代としてプランナーやプロジェクトマネジャーなどの人材、最新世代はものづくりもデザインも街づくりも興味ないけど何となく面白そうだから鯖江に移り住んだ「じゃない人」たちが増え、多様な人が集まっている。

大阪出身の私がなぜここに？

大阪生まれの私が河和田に出会ったのは大学4年生の時。京都精華大学を中心に県内外の学生たちが地域住民と協働で行う地域づくりプロジェクト「河和田アートキャンプ」がきっかけだった。2009年に単身移住し、地域の祭の手伝いなどをする傍ら、市から委託された漆器の産地調査／

消費地調査などを行った。「ものづくりが元気にならないと地域は元気にならない」との思いからデザイナーを志したのだが、以前デザイナーとのプロジェクトで失敗経験のある職人たちはデザイナーに対して猜疑心を持っていた。おそらく当時は「売る」ことまで考えたデザインではなかったからだ。この街でデザイナーとなるためには流通まで考える必要があると痛感した。

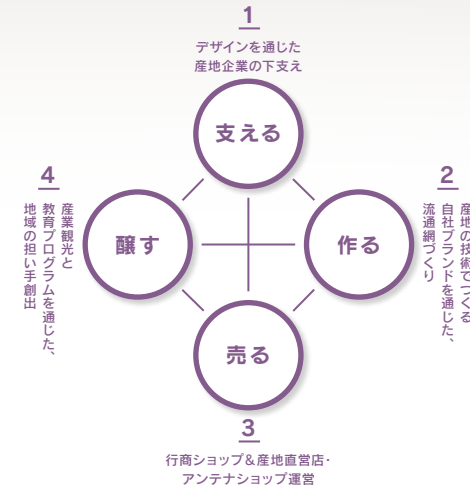
東京にデザインを学びに行こうと考えていた時、鯖江市商工政策課から要請され臨時職員＝公務員となり、観光ガイドブックやメガネのPR誌づくりなどに従事した。そうこうするうちにアートキャンプに参加した後輩たちがメガネや木工の職人として鯖江に移り住むようになっていった。彼らはいずれも「10年後、この産地は残っているのか？」という不安を抱いていた。産地継続のために何ができるか。「10年後の担い手になる」をテーマに、移住した彼らとともに土日のサークル活動のように始めたのがTSUGIだった。トークイベントや職人との金継ぎのワークショップなどを行う中から、福井中の同世代のクリエイターたちとの輪が広がっていった。そして2014年、市役所を辞めてデザイン事務所TSUGIをスタートさせた。

地域特化型 Creative Company

私たちはTSUGIを「地域特化型クリエイティブカンパニー」と称している。メンバーは20名。そのうち14人が県外出身者である。「次」の時代に向けて、その土地の文化や技術を「継ぎ」、新たな関係性を「接ぐ」という思いが込められている。仕事は、「支える」「作る」「売る」「醸す」という4つの軸で行っている。

①**支える**：グラフィックデザインを中心としたブランディングや商品開発、プロジェクトの運営で地元企業をサポートしている。全仕事の8割を占める。

②**作る**：メガネフレームの廃棄部分を使ってアクセサリをつくり、自社ブランドSur(サー)として国内外50店舗およびオンラインショップで販売している。「流通までカバーできるデザイナー」となるためには、自分たちでモノ作りから販売までを経験する必要があるとの考えから始めた。最近



カーテン会社とのコラボでバッグをつくったり、業務用漆器会社と子供用食器づくりも始めた。

③**売る**：河和田と福井駅前に、地域産品スーパーシアショップSAVA!STOREを運営している。

④**醸す**：産業観光と地域の担い手づくりを行っており、後に説明するRENEWプロジェクトもそのひとつだ。鯖江市と越前市が共催する「越前鯖江デザイン経営スクール」の運営も行っている。このように①から④までをぐるぐる回しながら、地域のありべき姿をつくらうとしているのがTSUGIという会社である。

産業観光イベント RENEW

TSUGIの仕事のひとつに、2015年からやっている産業観光イベントRENEWがある。毎年10月に3日間開催している。産地の工房・企業を一斉開放し、見学やワークショップを通じて、一般の人々が作り手の想いに触れ技術を体験しながら商品の購入を楽しめるイベントだ。河和田地区から

始まったRENEWは、今では鯖江市・越前市・越前町の7産地、90を越える事業所が参加する国内最大規模のイベントに成長した。2019年には産業観光イベントとしてグッドデザイン賞を受賞した。

今、RENEWは新しいステージに行こうとしており「越前鯖江エリアを日本一の産業観光エリアにする」という目標を掲げた。BtoBだけだった産地にBtoCを始めたのだが、最近ではこれらにEtoCを加えようとしている。つまりExperience(体験)とEducation(教育)である。この地に来てもらって、体験し知り学んで買ってもらう。それが長期的なファン獲得にもなるし、新しいものの見方やライフスタイル提案にもつながっていくと考える。この「体験」と「学び」を提供していく会社として作ったのが「SOE」で、地域資源の利活用や観光開発の企画立案から宿泊施設の経営などを事業として展開している。

単身移住から始まり同心円状に仲間が増え、デザイン、商品づくり、流通、産業観光、体験／教育事業…へとやれることが少しずつ増えてきた。

デザインとは何か？

デザインとは、美しい見た目をつくることにとどまらない設計・計画の行為だ。自分のデザインの定義に一番近いと思っているのは、『システムの科学』の著者ハーバード・A・サイモンの「現在の状態をより好ましいものに変えるべく行為の道筋を考案するものは、誰でもデザイン活動をしている」という言葉だ。地域にコミットし社会をより好ましい状態に導くインタウンデザイナーとしてこれからも活動を続けたい。



GUEST SPEAKER

新山 直広 (にいやま・なおひろ)
合同会社ツギ クリエイティブディレクター

1985年大阪府生まれ。京都精華大学デザイン学科建築分野卒業。2009年福井県鯖江市に移住。鯖江市役所を経て2015年にTSUGI LLCを設立。「福井を創造的な地域にする」をビジョンに、地域に何が大切で何が必要かという問いに対して、リサーチとプランニングを繰り返しながら、これからの時代に向けた創造的な地域づくりを実践している。2022年に越前鯖江地域の観光まちづくりを行う一般社団法人SOEを設立。2023年にはこれからの地域とデザインを探究するLIVE DESIGN Schoolを開校するなど、近年ではものづくり・まちづくり・ひとづくりといった領域で活動している。グッドデザイン賞特別賞、国土交通省地域づくり表彰最高賞など受賞多数。2024年度グッドデザイン賞審査委員。

